

Combined Fleet Girls COLLECTION FAN BOOK



おしっこれくしょん 改二編 弐
Piss-Colle Second Remodels II



Volume 27 **for ADULT ONLY**

ある夜の駆逐艦寮

陽炎「ちょ、なんなのいったい!? なんであたし囲まれてるの!?!」
吹雪「ふっふっふ……年貢の納めどきだよ陽炎ちゃん」
睦月「観念するのね!」
不知火「また何をやらかしたのか知りませんが、罪は償ってきてくださいね」
陽炎「濡れ衣よ! いや本当に何がなんだかわかんないんだってば。……ね、ねえ、あたし何かやっちゃった?」
皐月「というより、まだやってないんだよね」
陽炎「はい?」
吹雪「ホラ、例の……（ごによごによれずれず）」
陽炎「……!!!!!!」
初春「ふむ、びっくりまーくが五つくらい頭上に並んだ顔をしておる」
陽炎「あ、あ、あれまだやってたの!?!」
霞「……まあ、脈々と」
不知火「……顔を出していたのですか」
霞「よ、呼ばれるんだもんしかたないでしょ! あんたたちにはその、刺激が強すぎると思って黙ってたけど……」
夕雲「あらあら、陽炎さんゆでだこみたいになってしまっているわ」
睦月「意外とウブにやし?」
陽炎「……はあ!? ウブ!? 誰がウブですって!? ちょ、ちょっと驚いただけよっ! 何よ別に裸なんて、毎日ドックで見せあってんじゃない! 服なんてしょっちゅう吹っ飛ばし! 余裕よよゆー!」
皐月「おしっこも海やドックでするもんね。前に見た陽炎の、かわいかったよ」
陽炎「……………きゅう」
吹雪「くっ、かわいい……ヘタレネームシップ……」
叢雲「くっ、へんたい……ロリコンネームシップ……」
不知火「それは……不知火たち甲型も第二次改造を経た艦が増えてきましたが……このような破廉恥な……いやしかし始まりは司令のご意向で……そもそも司令の嗜好が……記録を残す重要性は不知火も……正直興味は……ぶつぶつ」
霞「あーもう! 観念しなさいな不知火! そこのバカゲロウも! 霞はもうやるって言うてるわ! 第十八駆逐隊は一蓮托生よ!」
陽炎「ええー……んもう、わかったわよう……夕雲、あんたどうすんのよ」
夕雲「もちろん否やはないですよ。陽炎さんのカラダ、改めて見せてもらえるなんて素敵なもの。夕雲のも好きなだけ見てね?」
陽炎「え、ええ……? そんなノリなの?」
夕雲「せっかくですから、最近迎えた夕雲の妹たちも呼んでいいかしら」
黒潮「うわあ、いきなりごっつい試練やなあ」
吹雪「モチのロン! にぎやかにしっぽりとやろうよ、ふえっふえっふえ」
陽炎「この子、こんな感じだったっけ……」
不知火「……わかりました。か、覚悟を決めます。武士に二言はありません」
霞「アンタ武士だったの?」

陽炎型一 番艦 陽炎改二

下着姿

吹雪「陽炎ちゃん、すれんだーでカッコいいなあ」陽炎「ま、まあ陽炎型ネームシップだし？」
 満潮「でも二次改造でも育たなかったわよね」陽炎「う、うっさいわっ！」夕雲「まあまあ。……
 夕雲はかわいいと思いますよ？」陽炎「……無理やり褒めなくていいから……」皐月「でもなんかっこー、
 将来性のあるお胸」陽炎「……」
 カワイイ下着だね。なんとなくもっとなんと派手なイメージが」吹雪「あ、それ思ってた」黒潮「陽炎
 ちゃんわりとこない感じがやで？」陽炎「あんたら、あたしのこと何だと思ってるのよ！」

夕雲型一 番艦 夕雲改二



陽炎「ていうか夕雲お、そんな目であたしのこと見てたんかい」夕雲「あら、いけなくつて？」潮「あの、仲悪いんですか？」不知火「いえ、
 むしろ親しいかと」陽炎「まあ、昔はガ島輸送やブナ輸送で苦楽を共にしたわ。秋雲もお世話になってるしね」皐月「なんかこう、対照的
 ……だけどね」陽炎「皆まで言うな！ まったくむっつちり育つて……」のわりに、わりとフツツの下着よねあんた」睦月「もっところ、すご
 いの着けてる感じなのね」夕雲「あ、あらやだ♥」巻雲「もお、夕雲姉さんはそんなえっちな人じゃありませんってばあ！」

胸部装甲・陰部

陽炎「あ、あうあう」夕雲「か、陽炎さんほらシャツとして、ね」陽炎「あ、あんただってキョドってんじゃないのよ！」不知火「……ごくり」吹雪「夕雲ちゃんすごい、乳首おつききてえつちなおっぱい……」睦月「陽炎ちゃんも、とんがっててかわいいにやし」陽炎「あ、ありがとう……」

初春「夕雲よ、その……下の毛は手入れせんのかや？」夕雲「わりと自然体が好きなんです。だからはみ出ない程度に……やうぱり、少し多いかしら？」如月「ううん、オドナっぽくで素敵よ。あつ、陽炎ちゃんのも、まだ下のほうまで生えてないけどとつてもかおいいわ」陽炎「うう……あたし最初から生えてたけど、二次改造してもあんまり変わらなかつたのよね……」不知火「陽炎はこのくらいがいいと思います（ぬいっ）」陽炎「ぬ、ぬい？」

性器

吹雪「ふおおお、これが甲型駆逐艦ネームシツプ
 二隻のおまんこ……！」陽炎「ま、まじまじ見る
 なあ……」荒潮「少しだけ、花びらさんに色素が
 ついてるのね。ふふ、ちっちゃなクリトリスさん
 もかわいい」夕雲「はあ、素敵……食べてしま
 いたいわ」陽炎「ゆ、夕雲が変態だよお」

臯月「わあ、夕雲のはすっごいオトナっぽい。
 クリもびらびらもおづぎいし」夕雲「ね、陽炎
 さん、触ってみて」陽炎「いいの？」ふわ
 ……「なんか……すごい。あたしのは……子供っ
 ぽいなあ」夕雲「ううん。陽炎さんのかわいい
 おまんこ、とてもえっちな綺麗で大好きよ」

放尿

陽炎「こ、こんなふうにするの!? あたし
 てっきり……うわあ」吹雪「まあまあ、せつが
 くだから間近で見たいな」ついで「不知火「今更
 気にすることもないでしょう、時折ドツクで舞
 風や時津風に付き合っついで用を足していますし」
 陽炎「ついでに何かぶっつきで見てんのよお!!
 もう出るわよ!? ……あ」綾波「わあ、出まし
 たあ! かわいい……」夕雲「はあはあ、熱い
 わ、陽炎さんのおしっこ」陽炎「えっちなよと
 何すくって……え、ええ……」吹雪「女の子の
 おしっこは飲みもの!」霞「もう突っ込む気も
 起きないわ……って不知火?」不知火「陽炎の
 ……陽炎の……これが……」陽炎「うええ、妹
 におしっこ出すところガン見されてるうう……
 死ぬ……」睦月「にやあ……かわいくてえっ
 ちでドキドキするにやあ……」駆逐や海防の子が
 ちーって、いっぱいおしっこ出しちゃうところ」



白慰

陽炎「あ、ん」睦月「気持ちよさそお……白いのがどろっとろ溢れてゆ……」如月「睦月ちゃんもいじいじしちゃって……」ぬいちゃんみたいに如月が手伝ってあげる」不知火「き、気持ちいいれすか、陽炎」陽炎「いいいいいい」不知火「あなたいつも遠慮なしに声出してっしかも時間かけるから……せつなく、なるんれすっ」陽炎「あーっ、あーっ」

卷雲「あ、あのっ！ 卷雲、一番近くに陣取つてもいいでしょうかつ」陽炎「ま、まあ、誰も止めないと思うけど……夕雲、あんたすごい顔よ」夕雲「ごめん……なさい、思いのほか興奮、してしまつて。失礼するわね……ん」皐月「わあ……おしっここの穴からじよーって、丸見え……すごい、えっち」卷雲「あっ、あっ、すごい、夕雲姉さんの姉さん、いただきますっ」夕雲「はああん」卷雲さんたらっ、そんなごくごく……」卷雲さんにおしっこ、飲ませるう……ふう、ふうツ」吹雪「ん……っ」んふッ」潮「吹雪ちゃん、また……おまたとおしっこ見ながら、ひとりでシてるう……」

夕雲「か、陽炎さんッ……そんな激しすぎッ……あッ……陽炎「うっさい！ これみよがしにセルフ乳練りよっで何よ！ に、2本も入るじやないの！」このスケベ！」夕雲「も、もっどっ……ぐちゅぐちゅ、おまんこしてえッ」卷雲「うー、ま、卷雲ももつと強くシなくちゃ」霞「……アンタたちも十分すぎるほど爛れてるわ」

潮「……………」不知火「あの……不知火の顔に何か？」吹雪「顔というより、ぶらとぱんつ
 ……かなあ」陽炎「やー、最近ぬいの下着がちよつとかわいいのよね。神通さんたら動揺し
 て『不知火ちゃん、大丈夫？』なんて聞いたこともない口調で。なんかあったの？」不知火
 「失礼な！ 不知火も強化されたわけですし、その、多少は中の装いも改めるべきか、などと
 考えまして、阿武隈や足柄に相談を。霞『ええっ！ 初めて聞いたわよ！』何よもう水くさい」
 不知火「いえ……こういうことを霞に訊いても仕方ないかと。霞『……腹立つけどまったく
 否定できない』

胸部装甲・陰部

不知火「……………」陽炎「ホラホラホラホラ！ 覚悟決めたんでしょ？」霞「あんた鼻息荒すぎ！ ……ごくり」
 不知火「この変態ども……」潮「っ！ 不知火！ なっ、何鼻血出してるんですか！」吹雪「これわ……発育途上
 だけど鍛え上げたぼでっのあんばらんすさがかえってすけべみが高い！ 星三つですッ」綾波「お毛毛の少な
 さがかわいいです……」不知火「撫でないでくださいそんなもの!!」



性器

不知火「こ、これで……いいのですか」吹雪「あう、興奮しすぎてクラクラしてきちやった……すごい、ちっちゃくてぴんく色で綺麗でかわいくてやらしい」如月「クリちゃん全然見えないわねえ。でも皮がとがつててかわいい♡」不知火「ぬ、ぬい……か、陽炎！ 霞！ 何をまじまじ覗きこんでるんですか！」陽炎「……いやあ、霞「こ、こんなるのねって、改めて」陽炎「なんがちよつと感動してる……かわいい、ぬいかわいい」

自慰

荒潮「あらあら、シャワーでなんていつ覚えたのお？ 不知火ちゃんのおえっち♡」不知火「ぐ……偶然ここに当たって、とても……よかったのとツ、かじゆみが、こっさり」霞「……そうよ、船渠でその、見られて……やり方、教えてやっただよっ」陽炎「……あたしの知らないぬいも、少しづつ増えていくのね。こんな……気持ちよさそうな顔も声も……」不知火「しらぬいは、ずつと、かけるうの……いもうと、ですッ、あつあつ」霞「……かわいい……」

放尿

不知火「じ、します、しますからっ」初春「ええい者ども、少しは落ち着かんか。艦娘の小水で今更何を騒ぐのじゃー初霜「姉さん、そんな下から覗き込みながら言っても……あ、出た……」荒潮「あらあ♡小さい子がお外でしてるみたいでステキ♡」夕雲「勢いよくしいっついでしてるの、とってもらしいわね……全部出して、ね？」不知火「じ、しずめえ……」陽炎「ふぶきち……あたしも、おしつこに目覚めちゃったかも」吹雪「陽炎ちゃんなら、わかってくれると思ってた……あ、終わった」霞「……ふ、拭いたげるからじつとしてなさい」不知火「ん、んっ」満潮「霞、ぱんつが……」

夕雲型士二番艦 卷雲改二

下着姿

陽炎「おお……これはなかなか……グツとくるわね」卷雲「そ、そうですね？ 二度目の改装の前からこういう色のも持つてはいたけど、なんだかあんまり似合わないっぽかったから」夕雲「今はいろいろオトナっぽくなつて、とつてもかわいらしくてカッコいいですよ。ねえ、秋雲さん？」卷雲「うえ!?」秋雲「いたのお!?」秋雲「いやあ、陽炎姉と夕雲姉にひきずりこまれて」卷雲「……ど、どお？」秋雲「秋雲さんは、いい……と思うよ？」フツーに」陽炎「なにこのフジイキ」

胸部装甲・陰部

卷雲「ゆ、夕雲姉さんしか触っちゃダメ……だけども、秋雲はと、特別に許可してあげるからッ」秋雲「あいありがと。おお……乳育つたよなあ、夕雲「ほよほよで、でも乳首は小さくて、かわいらしいですよ」卷雲「はにやあ……あ、そこは」秋雲「あ、いやつい」卷雲「……いいよ。やつと少しだけ生えたもん。確かめて？」秋雲「ごくり……あ、あんまり縮れてないねえ」卷雲「へんたい……これ、これで撚る？」秋雲「た、たぶん色々」卷雲「ふふ」陽炎「あー、なんだろ。こつちが照れくさくなつてくるわ」黒潮「仲良うてええなあ、ふたりとも」



卷雲「あ、秋雲」秋雲「ふあ、ふあ、い？」
 卷雲「前に言ってたよ。さくがしりよー」
 とかで秋雲さん？」秋雲「こっ怖いつて！夕雲
 いやあアレはほんの夕チの悪い軽口で……
 思いつきりぶつ叩かれたし」卷雲「……い
 今なら……いいよ。見せ……たげる。……い
 ほら」秋雲「つて、え、マジで……うわあ
 卷雲「うわあつて何よお!?」どっか変
 なの？」秋雲「あ、いやごめん、ホントに
 見るなんて思ってたから……全然
 変とかじゃないよ。ちっちゃいかなつて
 思うけど、なんかさ……キレイだよ」卷雲
 「うあ、ありがと……と、とくべつに触つて
 も……いいよ」秋雲「おあ」卷雲「そ、そ
 のかわりね？」しりよーにしていいから、
 そのかわり、とびきりえつちな描いて」
 秋雲「……も、もちろらん」陽炎「ヤバイ、
 何これ。セーシユン？な、なんか……涙
 出できちやつた」

性器

放尿

卷雲「ゆ、夕雲姉さあん……」夕雲「い、一度ね、
 シてみたかったの……私、えっちな長女なの♥」
 卷雲「ま、卷雲もっ、えっちな次女ですっ♥しー
 しーの格好で、秋雲の前でおしっこしちゃいますっ」
 秋雲「うわ……うわ……卷雲のおしっこだあ……」
 潮「お、私も吹雪ちゃんにこうされたけど、すごい
 えっちな……はあはあ」吹雪「まだろりっぽいおまん
 こが開いて、しゅーって飛び散って……たまらない」
 卷雲「は、はずかし、きもちいい……秋雲、どお
 ……? しりよーとか、お、おかすとかになる？」
 秋雲「……あとでシコリ散らかします、はい」卷雲
 「ダメっ、今してっ」秋雲「フアッ!?」
 卷雲「ま、卷雲も……するからあ」

自慰

如月「あらあ、立っていいいじなんてえっちな♥」
 卷雲「つ、月のアレの前にも我慢できな
 くて……出撃中、こっさり触ったらっ、すごい
 よかったときが」秋雲「ま、卷雲の……スケベ」
 卷雲「しゅ、修羅場中に五回も十回もっ、シてる
 子に言われたく……なあい」秋雲「オ、オナらず
 エロ原稿なんか描けるかあ……あーっ、ヤバイ、
 ヤバイ」卷雲「まっ、卷雲より先にイかないでえ」
 秋雲「そりゃこっちの台詞……ツツ」

夕雲「ホーネットの最期を看取ったあとね、駆逐艦秋雲は推進器をやってしまっ、卷雲へ、
 魚雷と弾薬を譲ってから内地へ戻って修理したんです。そして前線へ帰ってきてすぐ最初の
 ガ島撤退作戦で、そのとき卷雲……さんが。だからなのかしら、お互いにすごく、離れたく
 ないって気持ち強いみたいなの。もちろん夕雲も、風雲さんだってそうなんだけどね」

十五駆

潮「黒潮ちゃん……気持ちよさそお……」吹雪「潮ちゃん、ひとりでいじってないでこっち来て、ね」潮「あ……十五駆のみんな、大変だったん、ですよ」不知火「親潮が……見つかるかわかったとき、陽炎や黒潮以上に、神通が泣き崩れたのが忘れられません。……当時舞鶴で半死半生だったので、十五駆全滅の話は又聞きでしかなくかつたんですが、今でも、陽炎たちは時折、ひどく心細そうにすることがあつて、そういうときは三人でこうなんです。ああして……お互いをつなぎとめあつていられるのかも、しれません。……ぐすつ……ぐすつ……す……すみません。はやく、早潮と夏潮に、会いたい……ですつ」

黒潮「くばあ……あ、あかん！今のなし！吹雪「アイヨイヨイヨ」その感じ、恥らいつつもクリクリ！……ささ、もつと両側からぐいっどお！」綾波「はあ……綺麗でおしやれさんな黒潮さんのえつちなあそこ……」親潮「かわいらしいかたちですよね……ひだひだが、ふるふるして……」黒潮「って、何しれつとおんねん親潮ちゃん、あつそんな指……いきなりっ……」陽炎「こ、忽然と現れてかぶりついてるわね……」親潮「探知しましたから（きりこ）」

放尿

黒潮「堪忍や親潮ちゃん、仲間はずれにしたわけやないんよ……前もやけど、これ……親潮ちゃんの前、うち歯止め利かんようになつてまうから……すけべえになつてまうからあ……親潮「いっばいかけてっ」黒潮「はああ……綺麗なおし……あ、ああ……綺麗、黒潮さん……」黒潮「はああ……」親潮「はああ……」黒潮「はああ……」親潮「百年戦えますっ……ほら陽炎姉さんもっ」陽炎「あ、あ……な、舐めちゃった……妹のおしっこ舐めちゃったあ……はあ、はあ、はあ……」

睦月型七番艦 文月改二

下着姿

阜月「あ、あのーふぶきち？ ふぶきちがろりこんなのは別にかまわないしボクも正直
 人のこと言えないけどさ、あんまふみちゃんにおイタすんなよ？」吹雪「いやもうチリ
 バツ大丈夫だから！ ささ、ふみちゃんぬぎぬぎしましうねえ」叢雲「だめだこいつ」
 文月「えへへへ」大丈夫だよおさつちん。文月もお、いつまでも子供じやないもくん」
 漣「……と、こどもぱんつとこどもぶらのふみちゃんが申しております」満潮「また面
 倒な子が来ちゃったわ」吹雪「はあああ♥ お腹すべすべえ、お胸ぺたぺたあ♥」文月
 「どお？ 改装した文月かわいい？」

胸部装甲・陰部

阜月「うん、まあ、おイタすんなもない
 けどさあ」綾波「吹雪ちゃん、また五体
 投地してる」吹雪「ありがとうございます
 す。ありがとうございます文月ちゃん
 つるつるのままの割れ目」陽炎「こ
 これは改めて見ると……ちっちゃいわね」
 文月「もお！ 文月も改装したのに！」
 睦月「でも二十二駆が分かれちゃうたね
 少しお毛毛が生えたみちやんがちや
 んと、つるつるのさつちやんふみちや
 んに」長月「れ、冷静に人のおまたを觀察
 するんじゃない！ 呼び出されたと思っ
 たらまたこんない……」文月「いいなあ、
 ながながはおっぱい膨らんで、お毛毛も
 たくさん」長月「う、うう……大丈夫だ、
 文月もきつと育つさ……それに、その
 か、かわ……いいじゃないか、今も文
 月「えへへ、いいじゃないか、今も文



白露型三番艦

村雨改二

下着姿

白露「ふふふ！」吹雪「どうしていきなりブルーイングで登場を??」
白露「陽炎ちゃんとおんなじだよ！」見でよこのたゆんだゆんの村雨はい
一同「お、おお……」村雨「ちよ、ちよつとお、白露「お姉ちゃんに対して
何なのよおこの乳は!!」村雨「べ、別に好きで大きいわけじゃないもん……
ああ、峯雲さん、ひかないで!!」峯雲「いえ……うらやましい……です」

白露型いつちばん艦
白露改二

陽炎「白露ひとこと言わせて……あんたも大概でかいんじゃない?」白露「きゃあ!!」陽炎「うっ
うっ、そりゃあ元々健康的ないい体つきだったけど二次改装でこんなに……」霞「なんかもう、
深海棲艦になりそうなの勢いね……」白露「だ、大丈夫だよ陽炎ちゃん!」おっぱいがどうあろうと、
あたし陽炎ちゃんのいつちばんの親友だよお!」陽炎「う、嬉しい
ような悔しいようなっ」

時雨「だ、誰も下着の話をしていないね」峯雲「ふ、普通にかわいらしいから特にコメントする
こともないんじゃないでしょうか。はあ……村雨さん、色っぽくてキュンキュンしちゃう♥」

胸部装甲・陰部

白露「う、うああ……やっぱり恥ずかしいんだけどお」陽炎「あー、なんか見ててムラムラしてきたわ。適度にイイ身体しちゃつてもう！」
時雨「白露がよくふざけて背中の中のじかかづできたりするんだけど、そのくせ柔らかないものが押しつけられて……しかも二次改装の前からだんだんポリウムが増えて」白露「な、なんだよお、時雨のむづつりすけべ！」

吹雪「下はまだ刺つてるんだね」白露「うん、なんとなく……あんまり濃くない
と思うけどなんか広く生えてで伸ばすところと見苦しうなんだよね」如月「でも
わりと童顔気味なのに大きなお胸だけどつるの、おまたアジバランスなどころが
えっちでかわいくてステキ」白露「えへへ、い、いっちばんなので……」

峰雲「あの、村雨さん……さ、触つてもいい、たふたふする、でも張りも……大きな乳首……
そんな大げさな……みんな村雨の胸、そんなに好きなの？
皐月「ボクたちから見ると、もう雲の上のおっぱいっで
生えてて、えっちでオトナっぽくて、綾波羨ましいです」
白露「ぐぬぬぬ……」村雨「……私も『妹』なんだけどなあ」
峰雲「すかつ」村雨「うん」峰雲「うわ……あ、柔らかい……
触られるのはいいんだけど、那珂ちゃんや由良さんまで……」
綾波「お毛毛もしっかり」

性器

村雨「ほんとに困るう……けどお、つゆのを見せて
に付き合ってきたし、峯雲さんなら村雨は……
じやいん」峯雲「うごふつ」村雨「み、峯雲さん？」
峯雲「だ、大丈夫です……はあああ」村雨さん
の綺麗なおまんこ」村雨「お……、峯雲「あつ
おまたのことですよ」村雨「し、知ってるけど……
一応ね、一応！でも峯雲さんがそんな言葉……」
峯雲「私えつちですから！はあああ」久りちゃん
がぶつくりお顔出してる」ひだびださんが片っぱ
だけ大きくて、えつちでかわい……色も濃く
てオトナっぽい」村雨「み、峯雲さんてばあ……」

時雨「あ、あのね白露……」白露「だーいじょうぶ！
まーかせて！えつちなし、時雨のためにお、お姉ちゃ
んひと肌もふた肌もつ、脱いじゃうからっ」時雨「つて
いうか裸だよ……いや、その、僕はね」白露「ほら、
村雨と見せつこしてたところ……だ、よ」時雨「つ！」
白露「船渠でいっつも気にしてたの、知ってるもん。じ、
自分のをさ、こっそり覗いたり、さわったり……その
まま」時雨「な、何暴露してくれちゃってるんだよバカ
露!?」白露「ふふ……そんな乱暴な言葉使うの、あたし
にだけだよ」時雨「こ、このっ」白露「ん、さん……」
時雨「う……あ」白露「もつと……広げたり、さわった
りしていいよ。どんなふうか教えて」時雨「白露のへん
たい……」村雨「ふふ……きれいな……かわい……顔に
書いてある」時雨「な、ないから!!」白露「……かわい
くない？」時雨「あ、いやその……意外と、ピンク色
だ、ね」村雨「ちよつと羨ましいのよね……刺ってる
のもあるけど、えつゆのお……まだ、かわいくてふるふる
で」白露「え、えべへ」

放尿

白露「ひさじぶり、だね」時雨「う、うん……」
 峯雲「えっ……お二人でその、いつしよに……」
 あったんですか」白露「来たばかりのころは
 ね、時雨ももつとやんちゃだったから、遠征中
 に……すぐに恥ずかしがってやめちゃったけど
 時雨「し、白露があけつひろげすぎるんだよ」
 白露「でも……見たかつたんでしょ？ 白露は、
 見たいよ。時雨が、お外でおしっこ出すところ
 だから……」時雨「あ、あ……」峯雲「わあ、
 二人ともかわいいです……それに、時雨さんの
 おしっこなんて♥」白露「あはは、時雨、縦に
 広がっちゃってすごいね！ かわいいなあ、お
 毛毛もえっちなおまたも……すごい興奮して
 とろとろなのも」時雨「し、白露こそ……っ」
 白露「……おしっこ、二人ともいっぱい出たね。
 あははは、時雨のが、あたしのほうにどんどん
 流れてく……ねえ、大丈夫だよ。もう、いき
 なり目の前から、いなくなったり、しないから」
 時雨「……!! ないんだよ、いきなりい……」
 白露「……泣かないで……」



白慰?

村雨「……峯雲、さん……きもち……よかった、ありがと」
 峯雲「嬉しい……です。また、指、熱い」村雨「いい言わないでえ
 ……つゆも、いいなあ」峯雲「おっぱいがいいんですね、白露さん」
 時雨「さんに下もしてもらって……もう二回くらいイッてますよね」
 村雨「時雨もね……昔、つらい思いをたくさんしたけど、つゆが

目の前で爆沈したのが本当にトラウマだったみたいなの。ちゃんと
 目を見て話せるようになるまで……大変だったのよ。村雨もずっと、
 心配してたから……ぐす、三人がえっちなことしてるの、嬉しいな」
 峯雲「ね……私も、もつと……したいです」村雨「うん、もちろん！」

下着姿

村雨「峯雲さん、いい匂い」峯雲「村雨さん、まだ……火照ってる♥」朝雲「ちよつと、うちの峯雲をあんまり独り占めしないでよね! 別に……そういうことするなどは言わないけどさあ」峯雲「あつちやんたら、『私の』だなんて……♥」山ちゃん怒りますよ」時雨「いや言つてなかったよね?」山雲「うふふ、みんな仲良くして、山雲は嬉しいわ」黒潮「峯雲ちゃん、大人しゅうでも色っぽいぶらとぱんつでええなあ♥」眼福や」峯雲「黒潮さんまでそんな……♥」陽炎「くっ……霞や霰の姉妹だつてのに何なのよう」

胸部装甲・陰部

霞「別に私そんな気にしてないし……姉のほうが成長してるでしょうし」満潮「わ、私だつて……個人差あるし」荒潮「うふふ、荒潮は羨ましいから、おつきなおっぱい触っちゃう♥」峯雲「やん♥」荒ちゃんたらあ」睦月「先つぽのまわりが、ぶっくり膨らんでえっちなおね……♥」朝雲「こ、こら、吸っちゃだめ!」文月「はにゃあ、むっちりさんでぎゅうつとすると気持ちいいのお♥」皐月「お毛もきさちゃんよりふさふさして、いい手触り……あ」峯雲「やだ……さつき村雨さんにしてあげたから、興奮しちゃって、私……♥」村雨「嬉しい……村雨でこんなに濡らしてくれて」



性器

峰雲「はい、山ちゃん……あつちゃんほど、綺麗じゃないかも
 しれないですが、その……よく、ひとりでするから」山雲「うん、すごい、奥まで見えてえ、きらきらのふるふるで、山雲は好き、峰雲ちゃんのおまんまんも、朝雲姉のおまんまんも、陽炎「そ、そういう言葉使っちゃう子なんだ」朝雲「あ、あたじ教えてないからね!」

白慰

朝雲「峰雲……気持ち、よさそう」峰雲「み、みんな、見てくれて、るからっ」村雨「峰雲さん、さつきその……上手くて、村雨、どうにかなりそうだったわ♥」朝雲「ちえっ」村雨「……ごめんね、独占とか、そんなこと私」朝雲「別にいいわよ」村雨「……守れなくて」朝雲「はあ、意外と気にしないのね」村雨「だって……」朝雲「同僚として、あの子の姉とじて言うわ、村雨……笑って。艦娘になったんだから、あれで終わりじゃないんだから」

放尿

峰雲さん。朝潮型。第四水雷戦隊。第九駆逐隊。スラバヤ沖の武勳艦。しばらく九駆とは別行動。ガダルカナル。私は夕立を、峰雲さんは夏雲さんを喪った。ふたりとも損傷。シヨトランドからトラックまで連れ立って回航。峰雲さんが少しだけ長い修理。戦線復帰して、コロシバ

ンガラ島。あの夜……指揮をとった手前、再会するのが怖い、後ろめたい、そんな思いをふんわりと包みこんで溶かしてしまふような、素敵ない、女の子で、彼女は……。いま、ふたりで舌をからめ、唾液も涙も鼻水も吸い、ひどく勃起した乳首をねぶり、思いきりおまんこを広げ、じよるじよると放尿している。お互いのおしっこを手にとり、なめる、こすりつけて笑う。泣きながら笑う。セックスとしての排泄。村雨、ちよつと、すぐ、いい感じ。

藤波「う、うー」早波「どうしたのお姉ちゃん、おなか痛いのか？ さすってあげよっか？」
 藤波「あ、あんがとね……いやそうじゃなくてその。今更ながら後ろめたいというか、妹
 脱がして何やってんのというか」早波「……下着かわいくなかった？」藤波「いやいや、
 違うくて、かわいい、もち！ 真っ白なぶらとばんつに青いお尻ボンついているのかわいい
 しドキドキするけど、こんなドキドキしていいのかなって」早波「あたしは、お姉ちゃん
 がおぱん丸出しで寝てるどころか、被弾して鳥海さんにおっぱい隠してもらってるの
 とが見て、ドキドキするよ。ねえ浜ちゃん？」藤波「えいわた、私……その、す、少し」
 藤波「ごくり……」早波「だから、もつと、ドキドキして？」

胸部装甲・陰部

早波「お姉ちゃんの裸だあ……ちっちゃなおっぱいも薄いお毛もかわいい」藤波「ぐぬ
 ぬ、ちよつとしか変わんないじゃんか！ し、下はあたしのほうが少し……オトナだし」
 早波「お姉ちゃん……もつとドキドキした？ あたしの裸で」藤波「……見て、わかるで
 しょ」藤波「ふたりとも……かわいい」





胸部装甲・陰部

朝霜「じゅるり」岸波「さ、さすがに裸は恥ずかしいわよ。色気ない自覚はあるけど……」沖波「ううん、むしろ司令官好みだと思おう！」岸波「そ、そう？」沖波「それにあの、沖波もね、硬いお胸とか、細くて骨ばった腰とか、濃い目だけど下のほうが見えちゃってるお毛毛とかすごく……好き♥」岸波「沖波の変態……。私は普通に、沖波のふよふよしたお胸のほうが」朝霜「……ちえっ、どうせあたかも色気ねーよ」

沖波「かわい♥ 岸ちゃんかわい♥ すとんと竹を割ったようなカラダ！ 全然色気のないすぽらとぽんつ！ すつつついかわい♥」岸波「沖波……どうしてこんなになるまで放つておいたの朝ちゃん」朝霜「いやあ、藤姉が来たところから妙に色気づいてきたってゆーか。鈴谷にへんな影響でも受けたんかなあ」岸波「もう……。別に私も、こういうこと興味ないわけじゃないけど、時局認識不足なんじゃないの？」朝霜「まあ司令がさ、娘のほうも楽しめつて方針だかな。……だから」岸波「きや！」朝霜「あつたけーな岸姉……ホッとすると手加減して……」岸波「……うん。もつとぎゅつとして」沖波「ぎゅー！」

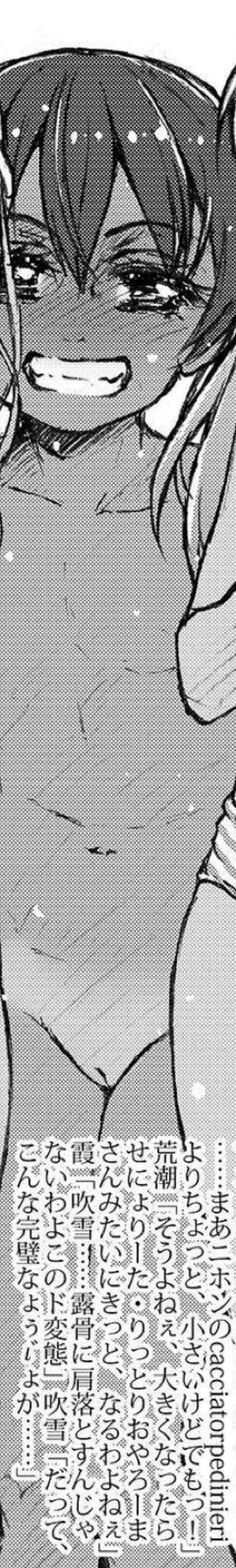
La cacciatorpediniere della
 classe Maestrale #1
Maestrale

下着姿

マエ「E strano! リベから聞いてたけど、ニホンのFlottaはその……独特な歓迎のしかた、するんですね」陽炎「あ、あははは……」吹雪「光輝あるイタリア王立海軍の水雷魂を、ぜひ長女のマエちゃんにも見せてもらいたいなーって」如月「長女の、ね。うふふふ」マエ「長女、長女って……そ、そんなに期待されちゃうたら仕方ないですねっ! はい、Ponte inferiore……です」皐月「あはっ、うーちゃんやミナとおんなじ縞々のぱんつだ。カワイイねっ!」綾波「リベちゃんと違って、お腹は焼けてないんですね」マエ「ちよ、長女はあんな、mezzo nudoで走り回ったりしません!!」

胸部装甲・陰部

リベ「もーっマエ、そんな隠さないの! ほらほら」マエ「Sono molto imbarazzante!」吹雪「叢雲ちゃん、ここ天国かなあ? 裸の白人の姉妹が戯れてるよお」叢雲「ちよっと、震えてるわよアンタ!? 興奮しすぎ」睦月「にやにやあ、ほんとーにつるぺたなのね……割れ目さんかわいい」如月「白桃みたいで美味しそう♥」マエ「むーっ、長女なんですけどお……まあニホンのcacciatorpediniereよりちよっと、小さいけどもっ!」荒潮「そうよねえ、大きくなったらせによりーたりっとなりおやろーまさんみたいにきつと、なるわよねえ」霞「吹雪……露骨に肩落とすんじやないわよこのド変態」吹雪「だって、こんな完璧なよういよが……!」



性器

吹雪「特型駆逐艦吹雪、ほぼイキかけました。嘘ですイキました」叢雲「そのまま成仏して……」潮「でも、あの……すごい、ちっちゃくて綺麗ですよホラ」叢雲「きよ、興味ないったら私は！」マエ「かわいく……ないですか？」叢雲「い、いやその……」夕雲「とてもかわいいですよ♥ お肌は日に焼けて小麦色だけど、あなたの……ふいーか？ 色素の薄い、綺麗なピンク」マエ「ワオ、そんな言葉知ってるのね……」ぐらっちえぐらっちえ「皐月「なんか、興奮する……」ねえ、リベちゃんどえっちごっこかすんの？」マエ「そ、それは……solitamente、かな」リベ「えっちかわかんないけど、ふたりでわざとdormitorioの裏で……したりするよ。あ、じゃあ今見せたい！ リベpipiしたい！」

マエ「はあ……はあ……つ♥」吹雪「白人のロリっ子ちゃんのおなに……尊い……霞「もう堂々と人前でそれをするようになったわね……」マエ「アケイラさんにごつそり、教えてもらったの……リベもしてるって言うから♥」リベ「リベ……ちよつと、怖くて、ほんとは見せてもらうだけ……だったけど……」マエ「……気持ち、よさそうだから」マエ「Mi sento bene……リ、リベっ、よく見てなさい、私、もう♥」

放尿

マエ「リ、リベがまだ子供でっ！ こんな遊び思いつくから、しかたなく Non c'è modo! つきあってあげてるんです！」初春「わかっておるともさあ、存分に用を足すがよい」リベ「あ、ちよつと下がったほうかいよ。マエ、すごい飛ぶから」吹雪「あっ本当！ かあいい……」如月「元気なおしっこね、可愛い割れ目さんからぴゅっって出てくるわ♥」マエ「ちよ、長女ですからっ」リベ「腰浮かしてるリベより遠くにしゃーってpipi飛ぶの、sorprendenteだよねー。今度キヨシと三人でしよっ！」

胸部装甲・陰部

ジョ「Without words...うう、いいわ、好きだけ見な
 さいよ。ちよつとは自信あるんだから...」卓月「す
 ごい...オトナっぽいおっぱい」ジョ「ちよつ...
 まあいいわ、あなたに甘えたいなら触つても許してあげる
 如月「じゃあお言葉に甘えて」ジョ「あ、あなたは
 ダメ！なんかいやらしい！」睦月「意外とお毛毛
 薄いのね。おまんまん丸見え」ジョ「Y:you kink...」

下着姿

サム「Hurry up, Jo! みんな、連れてきたよ!!」ジョ「Just a sec!、そんな引つ張らないでって、ちゃんと自分で立つから! ...ど、どう、あたしの underwearよ」荒潮「あんだ! うえあというより、らんじえりっつで感じ...?」如月「き、如月のよりもずいぶん...大胆ね」夕雲「夕雲もここまでのは全然持つてないわ...陽炎さんが一度すごいのが買つてて神通さんが慌でふためいてたけど」陽炎「思い出させないで...」ジョ「何よもう、これくらい全然普通よ! あなたたちがchildishなだけじゃない」



性器

サム「Oh...今日も「juicy...tasty...」ジヨ「ううう、あなたたち
がへんなど吹き込んだんでしよう!?」この子、妙にあたし
の...ここに興味示すのよっ!」睦月「ま、まあまあ、
小さい子のやることにやしい...」陽炎「た、たぶんユツキ
のしわざだわ...あの、うちの妹が迷惑かけて悪かったけど
悪気はないのよあの子も、ね」ジヨ「つてえ、謝りついでに
覗きこまないで! やっ、そっ...触んないで」夕雲「陽炎
さん、めっ...でもすごい...えっちで素敵なおまんこ...」
サム「Oma? What's that?」ジヨ「サ、サム、めっ!」

自慰

夕雲「気持ちわかりますけど、サムちゃんにもそろそろ...教えたほうが
よくなるって?」サム「I'm OK...Jo, I...sometimes I feel hot and creepy too」
ジヨ「Alright.サム、あんたが好きなどこ触って...鎮めるの。Look at me」

Johnston, 語る

あたしも最初に...どんな顔して二ホシの艦娘に顔を
合わせればいいのか、わからなかつた。艦はまだいい
わ、あの水上戦闘はまさしく艦隊決戦だったもの
お互いに義務を果たしただけ...でもね...その
あと、海の底からかすかに見たの...空からあんな
突っ込んできて...今でも...思い出すと、サム
やガンビンを抱きしめていないと...眠れなくなる。

おかしな話で、わだかまりを溶かしたのが、サムと...
あの日、最後に見た子、ユツキだったの。なんか一緒に
その...おしつこ、まあ小さいサムとあの子なら、そう
いう悪ふざけで仲良くなることもあるかと思つてたけど、
あたしまで...誘われて...ねえ。恥ずかしかつたわよ
そりやもう! でもね...なんか、思つたのよ。みんな

ジヨ「Oh...ah...」陽炎「あ...あめりかじんすごい」夕雲「もう陽炎さん、
へたレなんだから。サムちゃん、大丈夫?」サム「あ、うん私は...でも、
あのバぱんつが濡れちゃって...」みだいにすると...いいの?」ジヨ「そう、
よ...サム、Sam, please lick up my...VENT!!!」

同じ、つながっているんだって。敵とか味方とか、ちっ
ぽけなことでも、もっと大きな...きつと深海棲艦も含め
で、みんな大きなひとつなんだって。気がついたら...
ユツキとサムとね、抱き合つてわんわん泣いてた。
うん...今はね、ユツキも、妹みたいに思つてる。

朝潮型三番艦
満潮改二

朝潮型四番艦
荒潮改二

下着姿

建造中 UNDER CONSTRUCTION

※完成版は『改二編 参』に収録予定 (2019年内に頒布できるだろうか…)

※2017年9月の砲雷撃戦合わせで、海防艦も含むおしっこれくしょん
新刊を計画し、試作した占守編右ページ。翌年11月にやっと完成した
『海防艦編』には全く異なるヴァージョンが収録されました（お持ち
の方は見比べてみてください）



おしっこれくしょん 改二編 弐
Combined Fleet Girls Collection FAN BOOK Vol.27

発行日 2019年05月03日
ダウンロード版発行日 2019年6月15日

発行サークル LUNATIC PROPHET
pixiv id=92903

発行人 有村悠 Yuu Arimura
e-mail edgeoftheseason@gmail.com
twitter id=@lp_announce/@mkwy0513

印刷所 株式会社サングループ
web <http://www.sungroup.co.jp/>



produced by Lunatic Prophet
2019.05.03.

あかん…………こりゃあかんでえ…………